日立電気温水器 取扱説明書

ご愛用の皆さまへ

このたびは日立電気温水器をお買いあげいただきありがとうございます。
本品の機能を十分に発揮させて効果的にご利用いただくため、この取扱説明書は
「ご使用の前にまずお読みになり十分理解した上、正しく取り扱ってください」
「お読みになった後、いつでも取り出せるように大切に保管してください」
万一ご使用中にわからないことや不具合が生じたとき、お手入れのときにきっとお役に立ちます。

用　途

本製品は、深夜電力で夜間お湯を沸きあげ、飲用を除く給湯用に使用するものです。
上記用途以外に使用される場合の保証はできません。
（注）塩分・石灰分・イオウ分・その他の不純物を多く含有している水質のとき、または純水、イオン交換水の場合は温水器を使用しないでください。

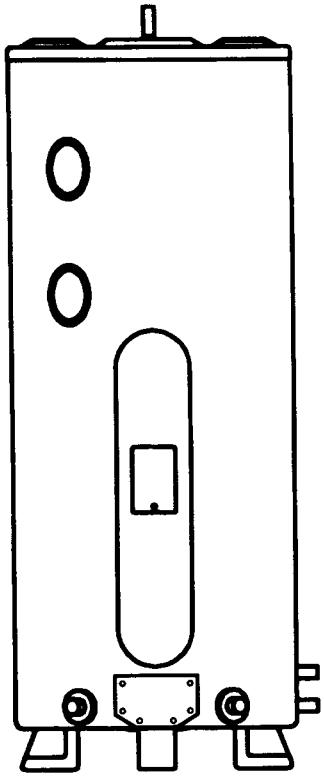
8時間通電制御型

★追焚スタンダードタイプ

型式

BE−C46A

BE−C46A−100V



HITACHI

Z141414C

安全上のご注意

＊　ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。

＊　ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取扱いをすると生じることが想定される内容を、「危険」「警告」「注意」の３つに区分しています。
いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。
注意：人が傷害を負う可能性及び物的損害のみの発生が想定される内容。
絵表示の例

△記号は、危険・警告・注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

＊　お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠警告

●修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造は行わないでください。
発火したり、異常動作してけがをすることがあります。

●アース工事がされているか確認してください。
故障や漏電のときに感電する恐れがあります。アースの取り付けは販売店にご相談ください。

●前面カバーは開けないでください。
感電の恐れがあります。

●温水器の近くにガス類や引火物を置かないでください。
発火することがあります。

●漏電遮断器の動作を確認してください。
漏電遮断器が故障のまま使用すると漏電のときに感電する恐れがあります。

●追焚き運転中は、循環アダプターから十分に離れてください。高温水が出る場合があります。やけどに注意してください。

●シャワー給湯には、必ずサーモスタット式の湯水混合栓を使用してください。
万一の機器の故障時に、やけどの恐れがあります。

●給湯時は給湯カランに手を触れないでください。（最高90℃）
やけどをすることがあります。

●給湯・排水時は熱湯が出る恐れがあります。やけどに注意してください。（最高90℃）

●逃し弁点検時は、逃し弁排水管に手を触れないでください。
やけどをすることがあります。

安全上のご注意（つづき）

⚠注意

●飲用はしないでください。
水質が変化した場合、下痢、腹痛など、体をこわすことがあります。

●タンクの熱湯排水は直接しないでください。
やけどをすることがあります。

●温水器の沸き上げ温度設定について、追焚き能力を充分発揮させるために「たっぷり」の設定をしてください。「おまかせ」の場合はふろ追焚き能力が低下し追焚き時間が長くなったり、追焚き加熱温度（循環アダプターより出る温度）が低下して、充分に満足できない場合があります。

●電源ボックスカバーは閉じておいてください。
ショート・感電することがあります。

●通電はタンクを満水にしてから行ってください。
過熱することがあります。

●逃し弁の点検をしてください。
配管漏れにより、やけどをすることがあります。

●１カ月以上使用しないときは、電源を「切」にしてタンクの排水をしてください。
水質が変化することがあります。

●凍結防止対策の確認をしてください。
・配管が破裂してやけどをすることがあります。
・機器が凍結し、破損することがあります。

●脚がアンカーボルトで固定してあるか確認してください。
本体が倒れてけがをすることがあります。

●床面が防水処理・排水処理されているか確認してください。
水漏れが起きた場合、大きな被害につながる恐れがあります。

目　次

1．各部の名称と働き……1
2．ご使用前の確認……2
3．使用上の注意……3
4．ご使用の方法……5
5．温度調節の方法……8
6．追焚スイッチの使用方法……9
7．凍結防止……10
8．配管工事例（減圧弁方式）……13
9．長期間運転を停止するとき……13
10．各部の点検とお手入れ……15
11．調子がよくないとき……17
12．保守点検について……17
13．保証・アフターサービス……18
14．仕　　様……19

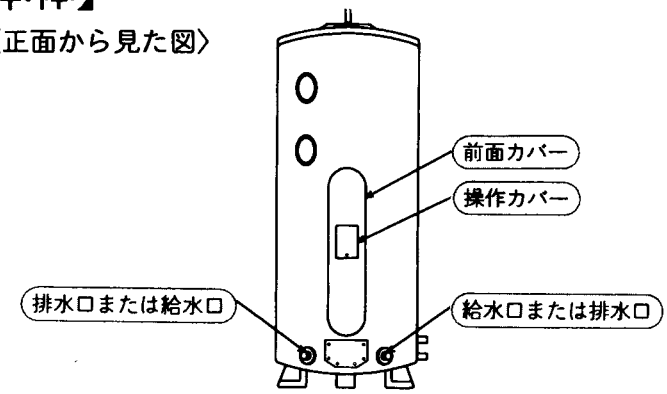
1．各部の名称と働き

電気温水器とは

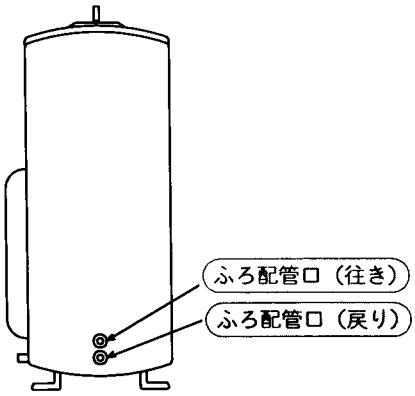
●タンク内に貯えた水を深夜電力を利用し、夜間に沸き上げる装置です。
●定められた温度までお湯が沸きますと、自動温度調節器が作動し、沸き上げを停止します。
●タンク内は一定の水圧に調節されています。
ご使用の際はタンク下部より給水され、タンク内のお湯を押し上げて給湯カランより給湯します。したがって給水は自動的に行われ、タンク内は常に満水状態です。

【本体】

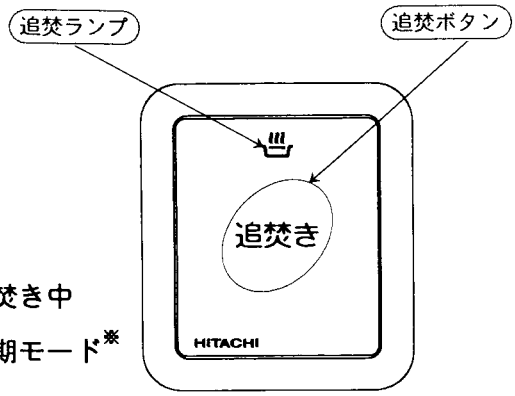
〈正面から見た図〉



〈右側から見た図〉



追焚スイッチ



・点灯…追焚き中
・点滅…初期モード※

※詳しくは 5 ページ ポンプへの呼び水・初期モード解除 をご覧ください。

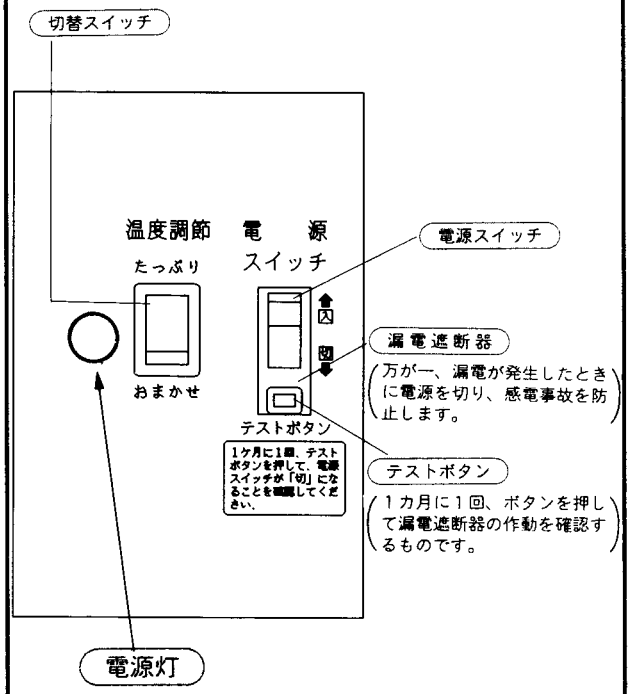
付属品

●保証書×1　●工事説明書×1
●取扱説明書×1　●アンカー用型紙×1
●配管固定金具×1　●追焚スイッチ×1
●呼び水・試運転要領書×1　●水抜き要領書×1
●ワタリ線（2本組）×1
（BE－C46A－100Vには付属していません）

ご注意

時間帯別電灯契約の場合には別売リモコン（BER－3A）が必要となります。

操作カバー内部



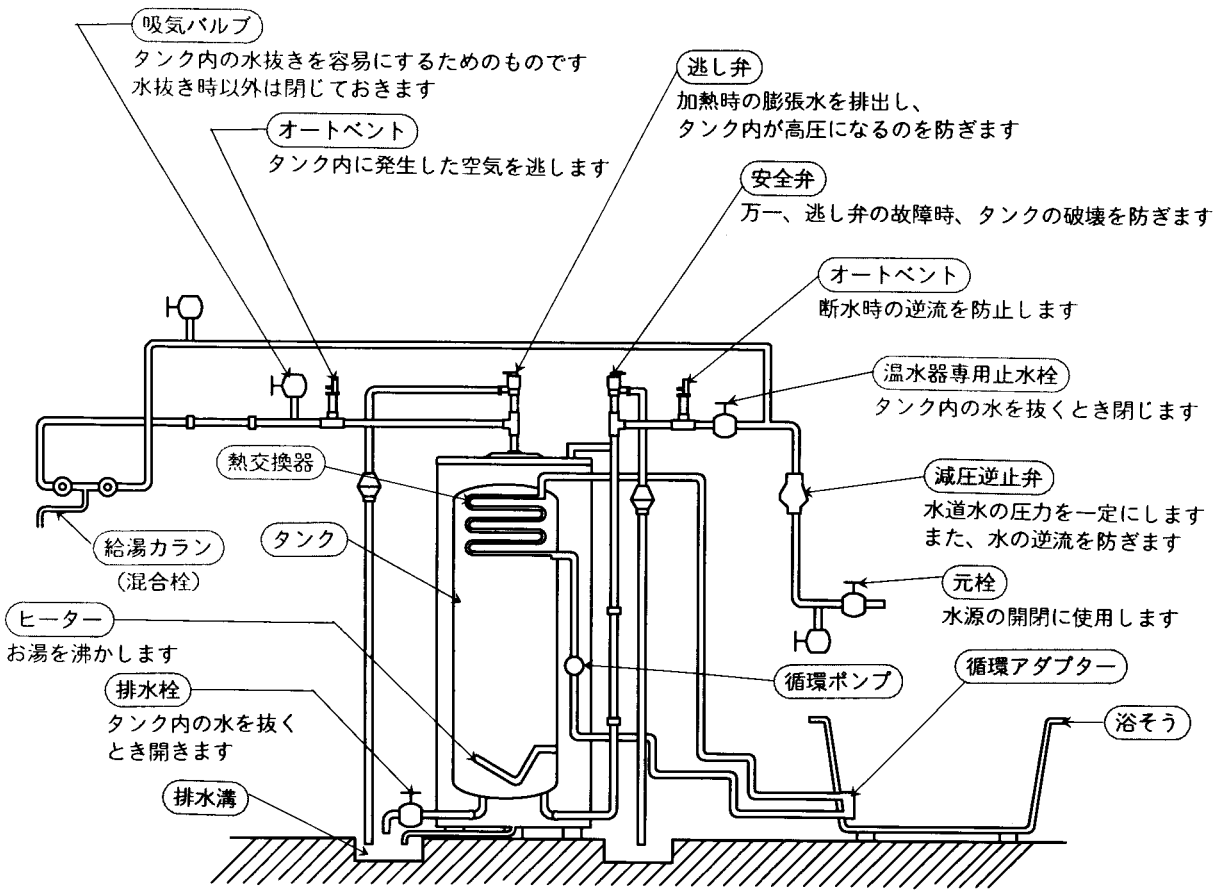
ご注意

本製品は、別売のリモコンの接続が可能です。
別売リモコン（BER－3A）を接続して使用する場合の操作は、主にリモコンで行います。（詳しくはリモコンの取扱説明書をお読みください。）
この場合、本体側操作部では、「電源スイッチ」と「テストボタン」のみが操作でき、その他の操作はできませんのでご注意ください。

（注）操作部 各部の名称と働きについては、「5．温度調節の方法」で説明しますので参照ください。

1. 各部の名称と働き（つづき）

配管システム



2. ご使用前の確認

①追焚スイッチのランプが消灯していることを確認してください。
　→点滅している場合は 5 ページの ポンプへの呼び水・初期モード解除 を行ってください。

②追焚スイッチの追焚ランプ（ 1 ページ参照）と追焚き動作が合っていることを確認してください。
　・追焚き動作（循環ポンプ動作）中…追焚ランプ点灯
　・追焚き停止（循環ポンプ停止）中…追焚ランプ消灯
　を確認してください。
　→追焚きの動作と追焚ランプの表示が反転している場合は、お買い上げの販売店又は工事店に連絡してください。

③時間帯別電灯契約の場合、別売リモコン（ＢＥＲ－３Ａ）が取付けてあることを確認してください。
　→時間帯別電灯契約の場合は、リモコン（ＢＥＲ－３Ａ）が必要です。

④時間帯別電灯契約の場合、リモコン（ＢＥＲ－３Ａ）の表示部に現在時刻表示が出ていることを確認してください。
　→現在時刻表示が出ていない場合は、時間帯別電灯用設定になっていませんので、お買い上げの販売店・工事店に連絡してください。
　（設定がされていないと電気料金が高くなります）

⑤その他は「工事説明書」（製品付属）に従って、お買い上げの販売店・工事店等と立会ってご確認ください。ご不審な点がございましたら、お買い上げの販売店又は工事店にお問い合わせください。

3. 使用上の注意

特に注意していただきたいこと

⚠注意 そのまま飲用しないでください。

電気温水器は、清潔に造られていますが、長期間のご使用によってタンク内に水あかがたまったり、配管材料の劣化等によって水質が変わることがあります。飲用される場合は、下記の点に注意し、必ず一度ヤカンなどで沸騰させてからにしてください。

- 必ず水質基準に適合した水を使用してください。
- 熱いお湯が出てくるまでの水（配管内にたまっている水）は、雑用水としてお使いください。

固形物や変色、濁り、異臭があった場合には、飲用には使用せずに、直ちに点検の依頼を行ってください。

⚠警告 温水器の近くに、ガス類や引火物を置かないでください。

発火の恐れがあります。

⚠注意 温水器が足場のしっかりした場所、かつ、万一の水漏れの場合にも支障のない場所（床面が防水、排水処理されている場所）にアンカーボルトで固定してあるか確認してください。

製品の脚部が床面に固定されてないと、地震により転倒したり配管が破損して漏水する恐れがあります。また、水漏れ時支障のある場所へ設置されると二次災害の原因となります。

⚠注意 タンク内が空のときは、電源スイッチを「入（ON）」にしないでください。

空だきの危険があります。万一、空だきをした場合、部品の交換が必要となります。

⚠警告 アース工事がされているか確認してください。

アース工事がされていないと、感電事故の危険が生じます。（工事説明書「アース工事」参照）

⚠注意 浴そうの循環アダプターを手足やタオルでふさいだり、カバーを回したりしないでください。

配管の水漏れの原因となります。

⚠警告 製品正面の前面カバー（電気品箱）は絶対に取り外さないでください。

内部の電気部品にふれると感電することがあります。

⚠警告 お客様ご自身による製品の改造は絶対になさらないでください。

製品を改造したりしますと、安全性が確保できないだけでなく、機能を十分に発揮できなくなります。改造してご使用の場合の保証はできません。

⚠注意 浴そうにイオウ、酸、アルカリ、濁り湯状にさせるものを含んだ入浴剤や洗剤または塩素系、強酸系の浴そう水処理剤を使用しないでください。

本体や配管が故障し、水漏れすることがあります。
入浴剤や洗剤を使用する場合は、その注意書きに従ってください。

⚠注意 長時間（1カ月以上）使用しない場合は、
①タンク内の水を完全に抜いてください。
②電源スイッチを「切（OFF）」にしておいてください。
㈱温水器を使用しない間に配管が凍結する恐れのある場合（特に寒冷地域等）は 13 ページの「9．長期間運転を停止するとき」を参照してください。

水質の変化や凍結防止のためです。

⚠注意 ソーラーシステムから電気温水器への給水は行わないでください。

システムによっては機能が十分に発揮できない場合があります。

3. 使用上の注意（つづき）

⚠警告 やけどにご注意ください。

混合栓を操作（先ず水栓を開いてから、湯栓を徐々に開く）して、お湯を適温に調節してからお使いください。お湯だけで使用しますと、やけどをしたり、流し台をいためる場合があります。

●シャワー使用時は、手で湯温を確かめてください。

●給湯カランは、湯水混合栓（混合栓）を使用してください。特に浴室では、サーモスタット（温度調節）付をおすすめします。

●追焚き運転中は、循環アダプターから十分に離れてください。高温水が出る場合があります。

●初めは生ぬるいお湯が出ますが、これは配管中に残っていた水が出るためですので、そのままお湯を出してください。すぐに熱いお湯が出てきます。このときやけどをしないように注意してください。

●小さいお子様、お年寄の方が一人で使用する場合は、まわりの方が注意してください。
特にシャワーを使用する場合、水を混合しないでお湯だけで使用しますと、やけどをします。

●お湯を使用しているときは、給湯カランが熱くなっていますから、やけどにご注意ください。

●オートベントが動作しないときには、給湯カランから空気が吹出し、お湯が飛び散る場合があります。
この場合は、修理が必要です。販売店に連絡してください。

●排水時はお湯に手を触れないでください。タンク内に熱いお湯が残っているとやけどをします。

●逃し弁点検時は逃し弁排水管に手を触れないでください。配管も熱くなっています。

■その他

●温水器の沸き上げ温度設定について、追焚き能力を充分発揮させるために「たっぷり」の設定をしてください。「おまかせ」の場合はふろ追焚き能力が低下し追焚き時間が長くなったり、追焚き加熱温度（循環アダプターより出る温度）が低下して、充分に満足できない場合があります。（8 ページ「温度調節の方法」を参照してください。）

●給水温度が低く残湯量が少ない場合、温度調節器が作動して停止する前に通電が停止し、設定温度に沸き上がらないことがあります。（8 ページ参照。）

●沸き上げ温度は、沸き上げ直後のタンク内温水温度で、時間の経過とともに少しずつ低下します。
また給湯カランから出るお湯は配管の放熱によって、設定温度より低くなります。

●ガス機器からの買い替えのお客様におきましては、シャワーの出具合が悪くなる場合があります。

●お湯のむだ使いにご注意ください。
1日に使用できる湯量は限られています。一度に多量のお湯を使用しますと、湯量不足の原因となります。
次のような、お湯の使い方には注意してください。
・入浴ごとに、お湯を入れかえる。
・食器洗いや、洗濯などで、お湯を流し続ける。
・夜の11時以降にお湯を使いますと、翌日のお湯の温度が低くなることがあります。
・早朝、お湯を使用しますと、十分に沸き上がらないことがあります。

●万一、火災発生のときには、電源ブレーカを「切（OFF）」にしてください。

4. ご使用の方法

配管の流し洗い

1 最初にご使用になるとき、湯や水に油が浮いたり、においがしたりすることがあります。これは、配管工事のとき使用した油が残ることが原因です。この場合、湯や水を十分だして油やにおいをとってください。

ポンプへの呼び水・初期モード解除

3 追焚スイッチの追焚ランプが点滅している場合（2ページ参照）、ポンプへの呼び水がされてない場合がありますので下記手順にて、ポンプへの呼び水 及び 初期モードの解除 操作を行ってください。（この操作を行いませんと、追焚き運転ができません。）ただし、据付時に販売店または工事店の方がこの操作を行っていれば、再度 ポンプへの呼び水 及び 初期モードの解除 を行う必要はありません。

温水器への給水

2 2ページの図を参考に、下記の順序で給水を行ってください。
（満水までに約20～30分かかります。）

①排水栓、吸気バルブを閉じてください。
②給湯カラン（混合栓のお湯側）を開いてください。
③元栓および温水器専用止水せんを開いてください。
（満水になると、給湯カランから水が出てきます。）
④給湯カランを閉じてください。

ご注意

●吸気バルブは確実に閉じておいてください。
●元栓・温水器専用止水せんは、開いておいてください。
お湯を使ったときは自動的に給水されます。

ポンプへの呼び水

① ふろ循環アダプターのフィルターを取り外します。（図1）
② フィルターガイドに呼び水キャップ、Oリングをセットします。呼び水キャップは、フィルターガイドの下部開口部のみを塞ぎます。（図2）

図1

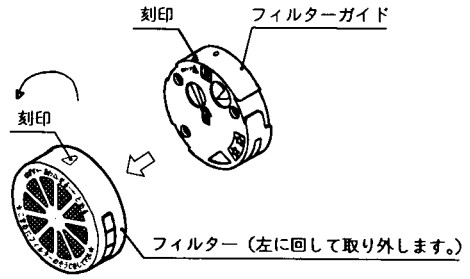
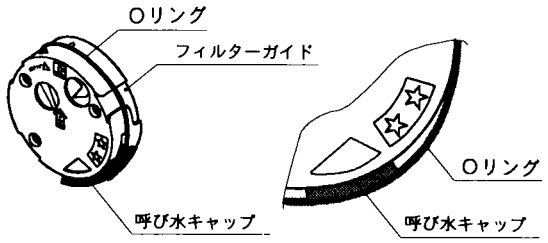


図2



③ 「上」マークが最も上になっていることを確認してフィルターガイドを取り付けて循環アダプター上端が完全に水没するまで浴槽に水を入れてください。（図3）
④ フィルターガイド正面左側の穴にホースの先端をあて吹出口より空気が出なくなるまで水を入れてください。（図4）

図3

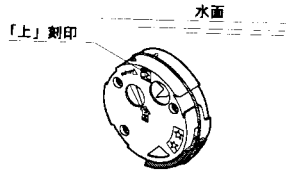
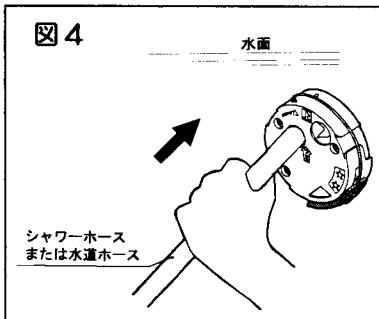
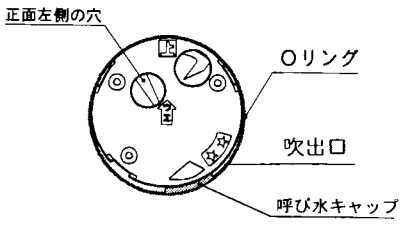
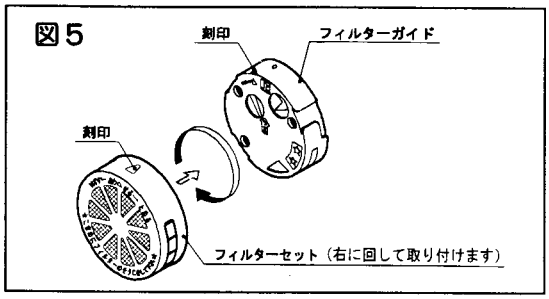


図4



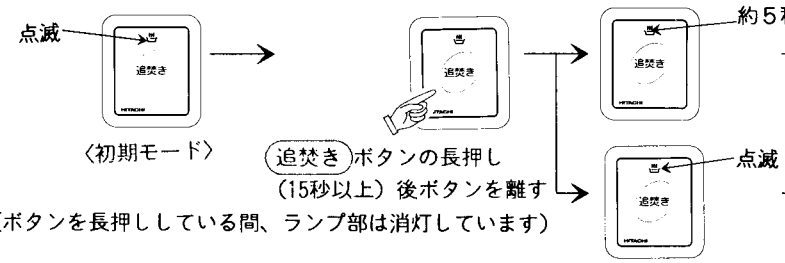


⑤ Oリングと呼び水キャップを取りはずし、フィルターセットを取り付けます。フィルターセット「△」刻印とフィルターガイドの「△」刻印を合わせてハメ込み、右に回して取り付けます。（図5）



初期モードの解除

追焚スイッチの追焚ランプが点滅している状態では（追焚き）ボタンを押しても、追焚き運転は動作しません。初期モードを解除する必要があります。



→ 初期モードの解除が完了しました。

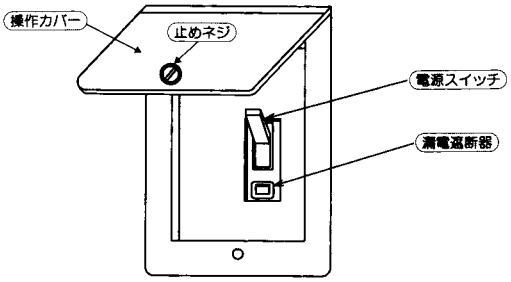
初期モードの解除ができていません。
→ 再度（追焚き）ボタンの長押し（15秒以上）を行ってください。

湯　沸　し

4 温水器への給水が完了しましたら、電源スイッチを「入（ON）」にしてください。
タイムスイッチにより、夜になりますと電気が入り、翌朝にはお湯が沸いています。

通電のしかた

①操作カバーを開け漏電遮断器の電源スイッチ（下図参照）を「入（ON）」にしてください。
②温度調節器をセットしてください。セット方法は、8 ページを参照してください。

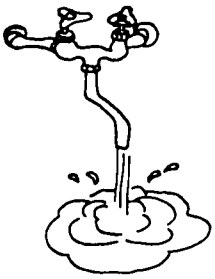


⚠注意 ❗ 操作カバーは操作完了後必ず閉じておいてください。

操作カバーの取付が不十分ですと、雨水等の浸入により、感電や機器が故障する恐れがあります。

お湯のご使用

5 給湯カランを開くだけでお湯が出てきますので混合栓を操作（水栓を開いてから湯栓を開く）して適温に調節してからお使いください。
お湯だけで使用しますと、やけどをしたり、流し台をいためる場合があります。



膨張水について

6 深夜電力通電中に逃し弁よりお湯がでますがこれは故障ではありません。水から湯になるときの膨張水を逃がすためで、正常です。

断水のとき

7 断水のときは、温水器専用止水せんおよび給湯カランを閉じておいてください。
温水器専用止水せん、給湯カランが開いていると再度送水されたとき、タンク内のお湯が全部出てしまいます。

ご注意

●給水設備の断水の連絡があった時にはすみやかに電気温水器給水側の温水器専用止水せんを閉めてください。そのまま放置されますと上層階からお湯が逆流したり、異常水圧（負圧）により缶体が破損します。十分注意してください。

その他

8 ●一階に温水器を設置した場合、二階でのシャワー給湯はできませんのでご注意ください。（出湯量が少なくなります）

●全自動洗濯機に直接給湯配管することは、できません。

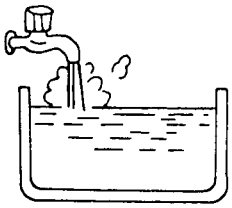
●サーモスタット式シャワーセットは、シャワーセットの構造により出湯量が極端に少ない場合があります。ご使用になるときは、最低必要圧力、シャワーヘッドなどの仕様を確認して、販売店、工事店とご相談のうえ選定してください。

お湯の上手な使い方

一日に使用できる湯量は限りがあります。
特に冬期は水温も低くムダな使い方をしますと湯量不足になりますから上手に使いましょう。

●お湯の流し洗いはやめ、容器に受けてから使いましょう。

●お風呂に給湯するときは、湯をあふれさせないように注意してください。



●入浴のしかたが湯量不足の原因になります。
- 毎回お湯を入れかえる。
- 朝夕２回入浴する。
- 来客等でいつもより入浴人数が多い。
  このような場合は湯量不足になりますのでご注意ください。また、入浴は続けて入りましょう。入らないときはきちんとお風呂のフタをしましょう。

●深夜電力通電中にお湯を使用しますと、翌日の湯温が低くなることがあります。同様に早朝にお湯を使用すると十分に沸き上がらないことがあります。

●無駄なお湯を沸かさないようにすると経済的です。お湯の使用量に見合った温度調節をしてください。

●温度調節は、翌日のお湯の使用量を考えて設定してください。
温度調節方法は 8 ページの「温度調節の方法」を参照してください。

5. 温度調節の方法

操作部各部の名称と働き

別売リモコン（BER－３A）をご使用の場合は、リモコンの取扱説明書を参照してください。

ご注意

別売リモコン（ＢＥＲ－３Ａ）を接続して使用する場合、本体側では操作できません。この場合リモコン側で操作しますので、ご注意ください。
詳しくは、リモコンの取扱説明書をお読みください。

●沸き上げ湯温は２種類の設定ができます。
●初めてお使いになるときは、「たっぷり」に設定されています。

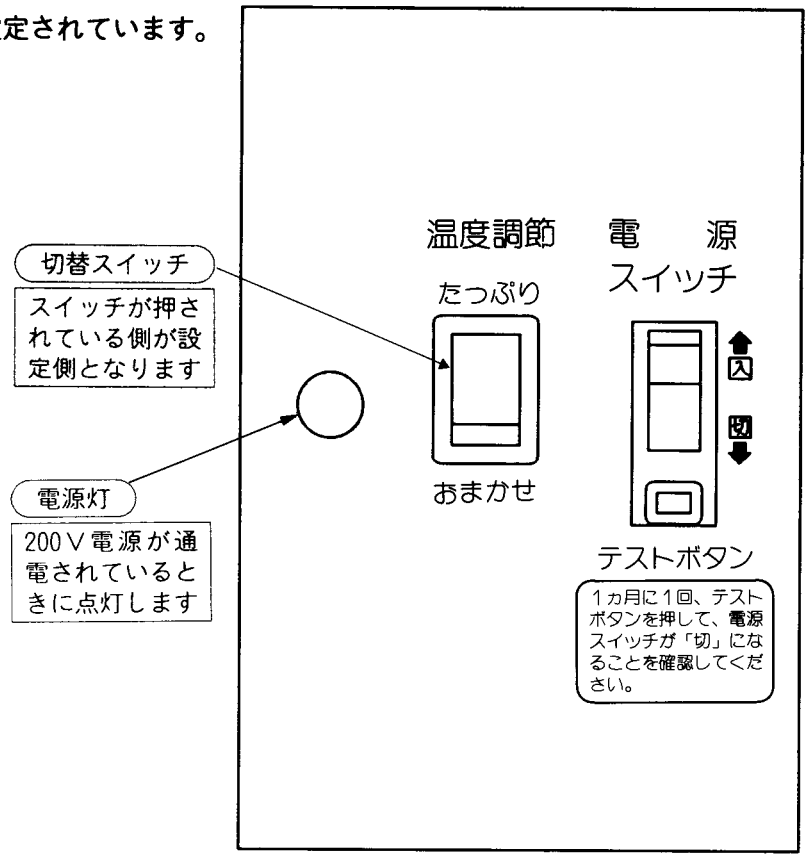
切替スイッチ

たっぷり
約90℃に沸き上げます。

おまかせ（自動温度設定）
過去の使用湯量から翌日の使用湯量を予測し、約75～90℃に沸き上げます。

ご注意

●温水器の沸き上げ温度設定について、追焚き能力を充分発揮させるために「たっぷり」の設定をしてください。「おまかせ」の場合はふろ追焚き能力が低下し追焚き時間が長くなったり、追焚き加熱温度（循環アダプターより出る温度）が低下して、充分に満足できない場合があります。



ご使用の方法

1．電気温水器への給水が完了しましたら、電気温水器の漏電遮断器の電源スイッチを「入（ON）」にしてください。
2．温度切替スイッチを「たっぷり」または「おまかせ」のいずれかに切り替えて、設定してください。
3．以上でセット完了です。夜になり、深夜電力が通電されますと、運転が開始されます。

ご注意

●設定した湯温は、沸き上げ直後のタンク内の温度で、ふろ追焚き運転および時間の経過により少しずつ低下します。
また給湯カランから出るお湯は配管の放熱によって、設定温度より低くなります。
●厳寒期や残湯量が少なく給水温度が低い（15℃以下）ときは、90℃まで沸き上がらない場合があります。

6．追焚スイッチの使用方法

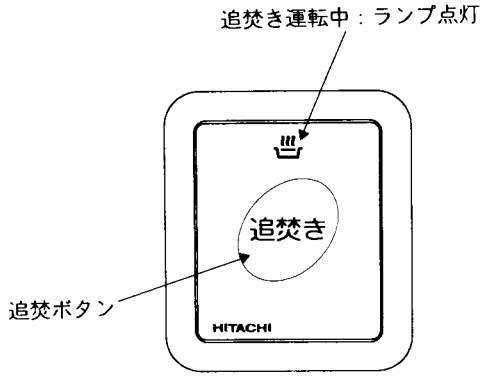
入浴中に浴そうの湯温を上げる（追焚き）

浴そうのお湯がぬるいときに押してください。浴そうの湯を循環させ、温水器のタンクの熱で沸き上げ、浴そう内の温度を上昇させます。適温になれば、再度追焚きボタンを押すと、追焚きが停止します。

追焚きボタンを押さなかった場合は、浴そう温度が約42℃になると自動停止します。

浴そう温度が約42℃以上の場合に、追焚きボタンを押すと、約２分間追焚き運転をして自動停止します。

1．追焚きを押してください。



途中で停止するとき

もう一度追焚きボタンを押してください。

お知らせ

●追焚き開始後しばらくの間は、配管内に残っているぬるい水や空気が出てくる場合があります。

●タンク内のお湯の温度が低い場合、浴そう温度が上昇する時間が長くなり、途中で自動停止する場合があります。（浴そう温度の上昇がほとんどない場合）

●追焚き運転を行うとタンク内の湯温が下がります。また冬期に前日の残り湯を沸き上げる時などはタンク内の湯温が大きく下がりますので、注意してください。

●循環アダプターからは浴そうの温度より高い温度の湯が出てきますので注意してください。

●本製品には保温機能はありませんので、〈追焚き〉操作を保温運転として使用しないでください。

●本製品には差し水機能はありませんので、浴そうの温度を下げる場合は落し込み用蛇口より水を注水してください。

お願い

●浴そう内の水位が循環アダプターより上の位置に無いときは、追焚き運転を使用しないでください。

誤って追焚き運転をした場合、運転開始約５分で追焚き運転が自動停止します。

●追焚きボタンを押して、追焚き運転中に熱くなりすぎた場合は、もう一度追焚きボタンを押してください。その時点で追焚きが停止します。

7. 凍　結　防　止

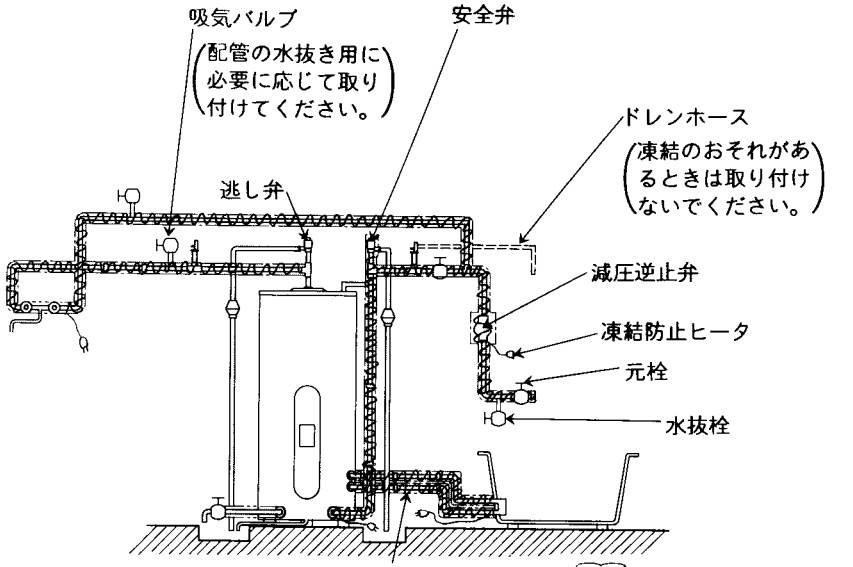
冬期は寒冷地だけでなく、温暖な地域でも思わぬ寒波で気温が0℃以下になることがあります。配管が凍結すると電気温水器が使えないばかりか、減圧逆止弁・逃し弁の破損、場合によってはタンクが破壊することも考えられます。したがって、凍結事故を防ぐため地域の気候条件にあった凍結防止策をおこなってください。
凍結防止には、「凍結防止ヒータ」、「水抜き」、「水を少量流し続ける」、「浴そうの残り湯循環」といった方法があります。
設備工事の方法を工事業者に確認の上、該当する防止方法の操作手順によって凍結防止をしてください。

A. 給水、給湯、排水において

1. 凍結防止ヒータを巻く方法

●凍結するおそれのある配管各部に凍結防止ヒータを巻き、通電によって凍結を防止する方法です。

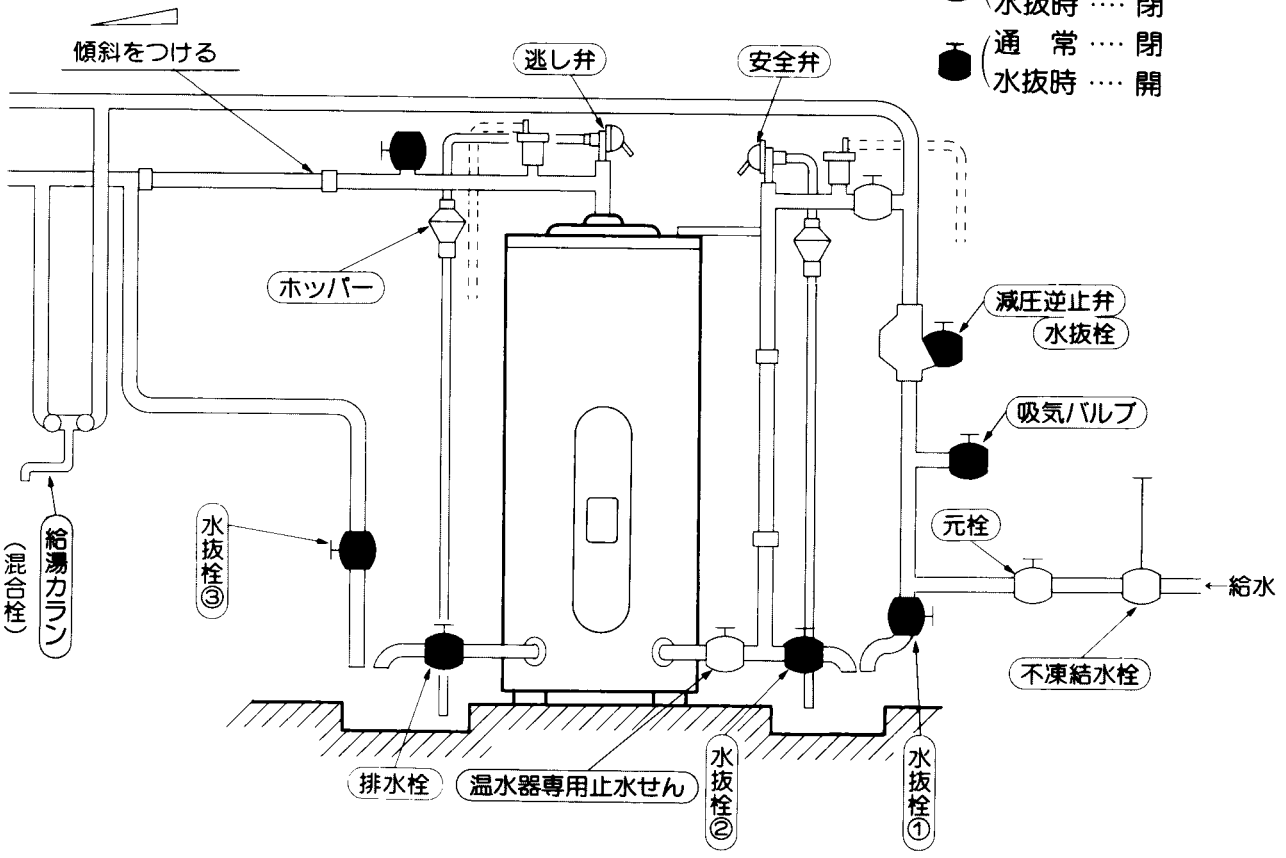
●寒冷時には凍結防止ヒータの差し込みプラグをコンセントに差し込んでください。



ふろ配管については 12 ページを参照ください

2. 配管内を水抜きする方法

給水・給湯配管内の水を抜く場合は下図のような配管が必要です。



〈水抜き方法〉

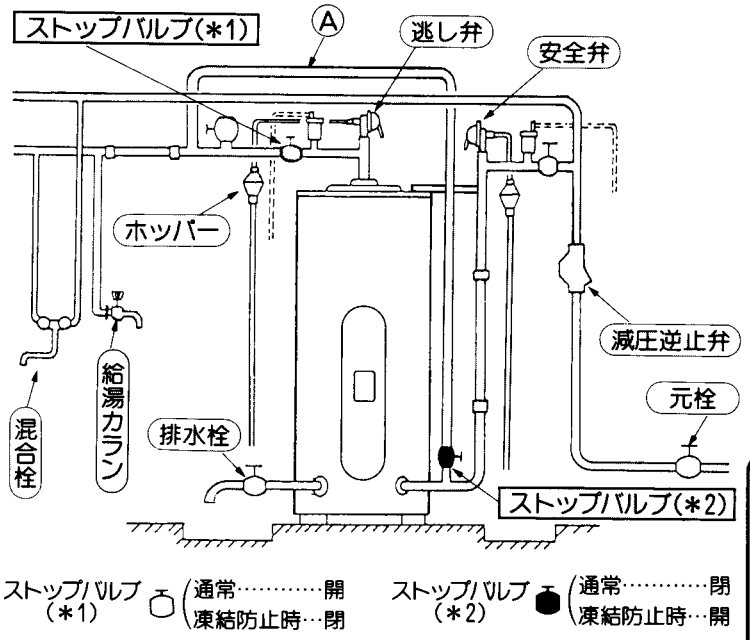
1．「元栓」を閉じ、「不凍結水栓」を閉じてください。
2．「温水器専用止水せん」を閉じ、「安全弁」のレバーを上げ、「吸気バルブ」を開いてください。
3．「減圧逆止弁の水抜栓」、「水抜栓①」、「水抜栓②」を開いてください。
4．「逃し弁」のレバーを上げ、「水抜栓③」、「給湯カラン」を開いてください。
5．「排水栓」を開き、15～20ℓ程度（２分間程度）温水器の水を抜き、「排水栓」を閉じてください。

〈翌朝使用するときは〉

1．「逃し弁」のレバーを下げ、「水抜栓③」、「給湯カラン」を閉じてください。
2．「水抜栓①」、「水抜栓②」、「減圧逆止弁の水抜栓」、「吸気バルブ」を閉じ、「安全弁」のレバーを下げてください。
3．「不凍結水栓」を開き、「元栓」、「温水器専用止水せん」を開いてください。

3．水を少量流し続ける方法Ⓐ

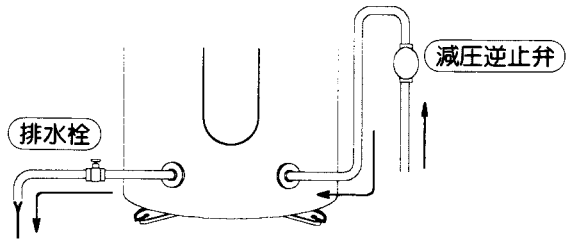
各給水栓・給湯カランを少しだけ開いて「糸引き」状態に少しずつ流し続けることによって配管内の凍結を防ぐ方法です。この場合、下図Ⓐの配管が必要です。



●ストップバルブ(※1)を閉じ、次にストップバルブ(※2)を開きます。（お湯を使うときは※1を開き※2を閉じます）
●各給水栓・給湯カランを少しだけ開いて「糸引き」状態に少しずつ流し続けます。
●上記凍結防止策が施工されていない場合でも減圧弁を通したシャワーの給水栓を少し開き「糸引き」状態に水を少しずつ流し続けることにより減圧弁の凍結を防ぐ簡便な方法もあります。

4．水を少量流し続ける方法Ⓑ

凍結防止ヒータや水抜きによる凍結防止策のない一般地域で、異常寒波で冷え込みが予想される夜には、少量の水を流し続けることにより凍結による機器の破損を防いでください。



排水栓から少量の水を流し続ける方法

●翌日お湯を使用するとき
温水器の排水栓を少し開き、少量の水を流し続けてください。

ご注意

この方法では給湯配管は凍結防止できません。また、温水器の沸き上げ湯温が少し低くなります。

●翌日お湯を使用しないとき
温水器の電源スイッチを「切（OFF）」にし、給湯カランから少量の水を流し続けてください。

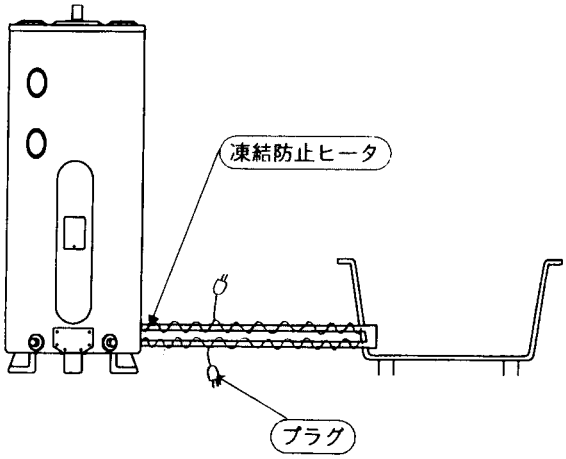
B. ふろ配管において（必ず「1」「2」の両方の方法にて凍結防止を実施してください）

1. 凍結防止ヒータを巻く

●凍結するおそれのある配管部分すべてに凍結防止ヒータを巻きつけてください。（右図参照）

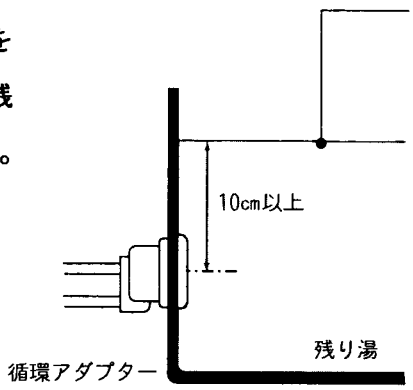
（外気温度が－10℃を下回る恐れのある地域では現地施工部分の給水配管、給湯配管に凍結防止ヒータを巻きつけてください。）

●寒冷時にはすべてのプラグをコンセントに差し込みます。凍結しない季節はコンセントからプラグを抜いておきます。



2. 浴そうの残り湯循環

●入浴後、排水をせずにふろのお湯を残しておいてください。自動的に残り湯を循環して凍結防止を行います。



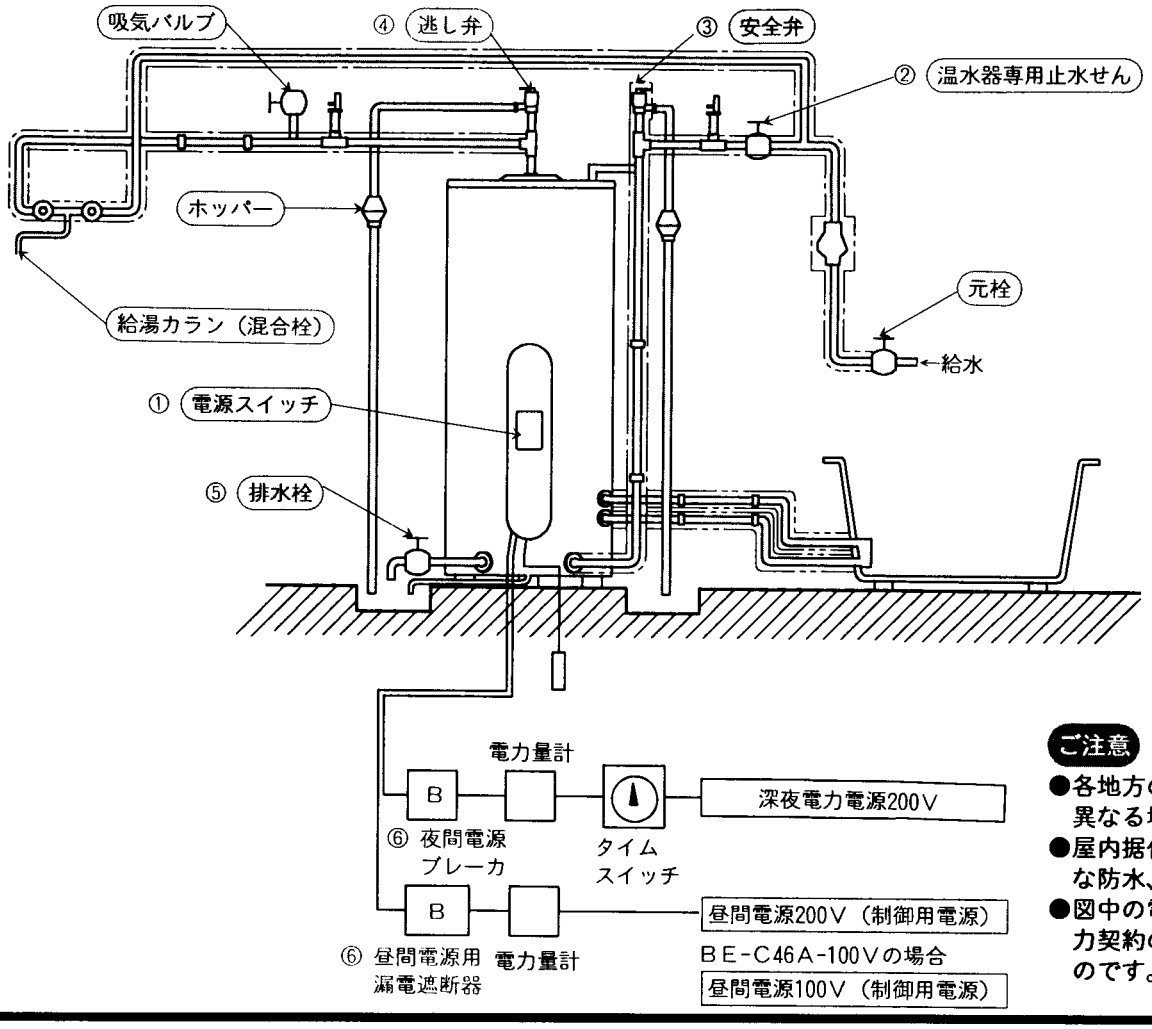
入浴後、排水せず浴そうの湯を残しておく

お湯の目安は循環アダプターの中心から約10cm以上です。

▼

本体内の湯温センサーが約5℃以下を検知すると凍結防止のため、ふろ配管に残り湯を循環させます。

8. 配管工事例（減圧弁方式）



ご注意

- 各地方の水道局の指導により異なる場合があります。
- 屋内据付の場合、床面は完全な防水、排水工事が必要です。
- 図中の電気配線回路は深夜電力契約の場合の例を示したものです。

9. 長期間運転を停止するとき

- 「8. 配管工事例」の図を参考に操作してください。

お知らせ

温水器を使用しない間に配管が凍結する恐れがある場合（特に寒冷地域等）はたとえ1カ月以上であってもタンクの水は抜かずに、本体の電源スイッチを「入（ON）」状態のままにし、浴そうには水を循環アダプター以上残しておいてください。（目安としては循環アダプターの中心から約10㎝以上です）（「入（ON）」にしておかないと本体内部の配管等の部品が凍結し、破損する恐れがあります。）やむを得ず本体の電源スイッチを「切（OFF）」にされる場合はお買い上げの販売店または、工事店に連絡して、製品全体の水抜き処置（14 ページ「水抜き要領」を参照）を行ってください。

●1カ月以上の長期間使用しないとき

1. 温水器の電源スイッチ①と夜間電源ブレーカ、昼間電源用漏電遮断器⑥を「切（OFF）」にしてください。
2. 温水器専用止水せん②を閉じてください。
3. 逃し弁④、安全弁③のレバーを上げてください。
4. 排水栓⑤を開いてください。
   （注）熱いお湯をたくさん流すと排水管を損傷する恐れがありますので、水で薄めるなどご注意ください。
5. 排水が終わりましたら逃し弁④、安全弁③のレバーを下げてください。
6. 排水栓⑤を閉じてください。
7. 再びご使用になるときは、5 ページ「ご使用の方法」の項に準じてください。
   必ず、タンクを満水にしてから電源スイッチを「入（ON）」にしてください。

●1カ月以内の比較的短期間使用しないとき

1. 温水器の電源スイッチ①を「切（OFF）」にしてください。
2. 温水器専用止水せん②を閉じてください。
   （注）凍結のおそれのあるときは、1カ月以内の使用しない時でも左記の項に準じてください。
3. 再びご使用になるときは、タンク内の水を入れかえてご使用ください。
   （15 ページ「各部の点検とお手入れ」の「タンク内の掃除」の項参照。）

水　抜　き　要　領

1．本体の電源スイッチがＯＮになっているか確認してください。
（深夜電力契約の場合は、昼間電源用電源ブレーカ（現地接続品）がONになっているか確認してください。）

2．浴そうの水を全て抜いてください。

3．浴そうの水が全て抜けてから、追焚スイッチの（追焚き）ボタンを押してください。（図１）

4．30秒後、再度（追焚き）ボタンを押して追焚き運転を停止させてください。

（ボタンを押さない場合には、ポンプが約５分間運転し、自動停止します）（図１）

5．本体内部のポンプに接続しているバルブを開いてください。（図２）

6．水が全て抜けましたらバルブを元通りに閉じてください。（図２）

7．（追焚き）ボタンを長押し（15秒以上）後、ボタンを離してください。（図１）

㈱　ボタンを長押ししている間、ランプ部は消灯しています。（ボタンを離すまで消灯しています）

8．ランプが点滅します。（初期状態になります）※

ランプが点滅しない場合は、再度７の作業を行って初期状態に設定してください。

図１

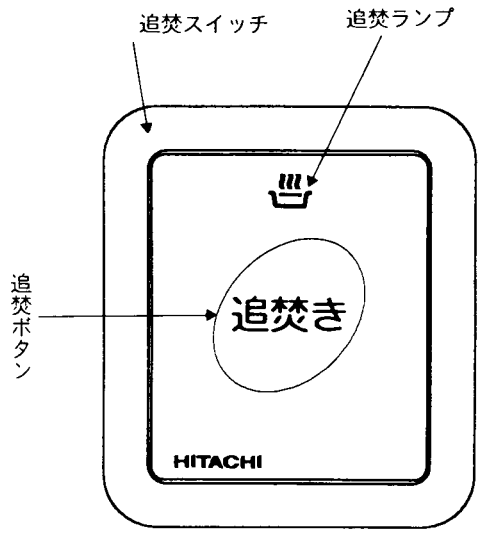
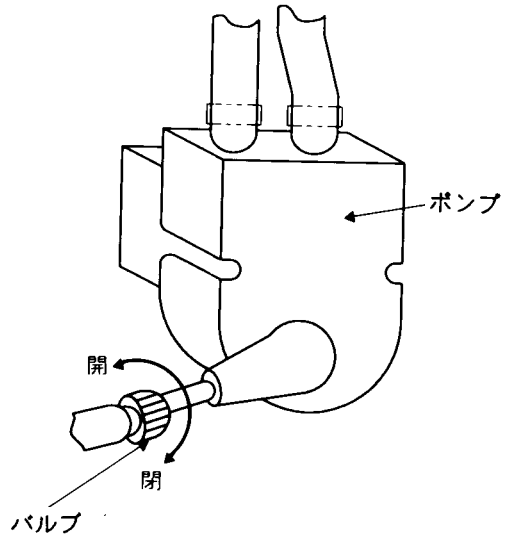


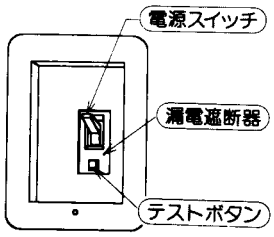
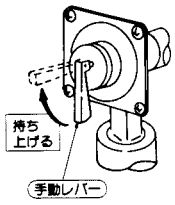
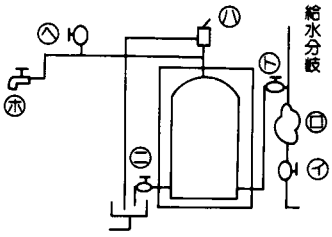
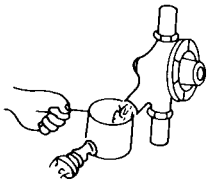
図２



※　初期状態にすると（追焚き）ボタンを押しても、追焚き運転を行わない様になっています。（ポンプ内に水が入っていない為）

再度、使用する時はポンプへの呼び水を行ってから初期状態を解除してください。（5ページ（ポンプへの呼び水・初期モード解除）参照）

10. 各部の点検とお手入れ

No.	項目	時期	点検・お手入れ
1	⚠警告 ❗ 漏電遮断器の確認	1カ月に 1回	① 深夜電力通電中に温水器の操作カバーを開けてください。 ② テストボタンを押して、電源スイッチが「切（OFF）」になることを確かめてください。 ③ 動作確認後、必ず電源スイッチを「入（ON）」に戻してください。 ④ 操作カバーを閉じてください。 閉じ方が不完全ですと雨水が浸入して感電や機器が故障する恐れがあります。 
2	⚠注意 ❗ 逃し弁、安全弁の点検	1カ月に 1回	① 手動レバーを持ち上げて、排水することを確かめてください。 （この操作を怠りますと、湯あかの影響により逃し弁、安全弁の機能が低下し、温水器の安全を確保することができなくなることがあります。） ② レバーを元に戻しても水が漏れて止まらないときは、ゴミを噛んでおります。レバーを上げて、ゴミを流してください。 
3	タンク内の掃除 （使用中タンク内底部に湯あかや沈でん物がたまりますので掃除してください。）	1カ月に 1回	排水栓㊁を開けて約2分間排水してください。 この場合、お湯が出てくることがありますので、やけどをしないように注意してください。
		半年に1回 （お湯を使い終わった時に掃除しますとお湯がムダになりません。）	① 操作カバーを開けてください。 ② 電源スイッチを「切（OFF）」にしてください。 ③ 温水器専用止水せん㋣を閉じてください。 ④ 給湯カラン㋭を開けてください。 ⑤ 吸気バルブ㋬を開いてください。 ⑥ 逃し弁㋩の手動レバーを押し上げてタンク内に空気が入るようにしてください。 ⑦ 排水栓㊁を開け、タンク内の水をすべて排水してください。（約30～40分間かかります。） ⑧ 水ににごりがなくなるまで、給水・排水をくり返してください。 この場合、お湯が出てくることがありますので、やけどをしないように注意してください。 ⑨ 排水栓㊁を閉じてください。 ⑩ 吸気バルブ㋬を閉じてください。 ⑪ 逃し弁㋩のレバーを元に戻してください。 ⑫ 温水器専用止水せん㋣を開いてください。 ⑬ 給湯カラン㋭から水が出始めたのち、給湯カラン㋭を閉じてください。 ⑭ 電源スイッチを「入（ON）」にしてください。 ⑮ 操作カバーを閉じてください。 
4	水漏れ確認	1カ月に 1～2回	① 本体周り、配管からの水漏れがないことを確認してください。
5	ストレーナの清掃	必要時	① 元栓㋑を閉じてください。 ② 減圧逆止弁㋺のストレーナのフタをはずし、中のアミを洗います。 ③ アミとフタを元通りに組みこんでください。 ④ 元栓㋑を開けてください。 

10. 各部の点検とお手入れ（つづき）

No.	項　目	時　期	点検・お手入れ
6	温水器表面のお手入れ	汚れたとき	①　汚れは乾いた布でふくか、布に台所用洗剤をうすめてふくませ軽く絞ってふいてください。洗剤使用後は、布をよく水洗いし、固く絞ってから洗剤をふきとってください。 ②　シンナーなどの溶剤の使用は、塗装面をいためますので、使用しないでください。
7	循環アダプターフィルターセットの清掃	こまめに	フィルターの清掃はこまめに行ってください。 ①浴そう内の循環アダプターのフィルターセットを左に回してはずしてください。 ②フィルターセットを水等で洗浄してください。歯ブラシなどを使用すると細部の汚れがおちます。 ③フィルターセットを循環アダプターに元通り取り付けてください。（右に回します）取付けがゆるいと運転中に外れ、故障の原因になります。 取り外し　取り付け 〈フィルターセットの取り外し方法〉
8	ふろ配管の洗浄およびすすぎ	必要に応じ（半年に1回）	洗　浄 ①入浴後、排水せずに浴そうのお湯を残しておく。（お湯の目安は循環アダプターの中心から約10cm以上です） ②配管洗浄剤（市販の「ジョンソン株式会社製ジャバ（1つ穴用）」）を1袋入れる。 ③追焚スイッチの（追焚き）ボタンを押す。（追焚き運転を行いながら、ふろ配管を洗浄します） 浴そうの温度によっては途中で追焚き運転が終了してしまう場合がありますが、その都度（追焚き）ボタンを押して、追焚き運転を継続させてください。 すすぎ ①浴そうの排水栓を抜いて排水する。 ②排水が終わったら、排水栓を閉じ、循環アダプターがかくれるくらいまで蛇口から水を入れる。 ③追焚スイッチの（追焚き）ボタンを押す。（追焚き運転を行いながら、ふろ配管のすすぎを行います） 循環アダプターから出てくる湯に濁りがなくなるまで、追焚き運転を継続させてください。 ④浴そうの掃除を行い排水してください。 その他詳細は洗浄剤付属の説明書をお読みください。 ご注意 ●洗浄やすすぎをされるとタンク内の温度が下がりますので注意してください。（タンク内の温度が下がりますので、入浴後に洗浄されるのをおすすめします）

ご注意

排水栓からの排水は、必ず排水溝（排水管）に水が溜まらないことを確認しながら、排水栓にて流量を調節して行ってください。
排水溝（排水管）の排水能力が不充分な場合、排水があふれ出る恐れがあります。

●逃し弁・安全弁・オートベント・減圧逆止弁は消耗品です。劣化により水漏れすることがありますので点検により不具合があった場合は、お買い上げの販売店にご相談のうえ交換してください。

11. 調子がよくないとき

お湯が沸かない(湯温が低い)とき

1 まず、次のことをお調べになってください。その上でなお異常があるとき、および下記以外にも異常があるときは、お買い上げの販売店または、工事店にご連絡ください。

(1) 電源ブレーカが切れていませんか。
(2) 電源スイッチが切れていませんか。
(3) 夜間の通電中に停電はありませんでしたか。
(4) 夜間の通電時間中に多量のお湯を使用していませんか。
(5) 温度切替スイッチを「おまかせ」で使用していませんか。
「おまかせ」での使用の場合、過去のお湯の使用量が少ないと自動的に沸き上げ温度が低くなります。
(6) 運転休止の設定になっていませんか。(リモコン〈ＢＥＲ－３Ａ〉使用時)

お湯が沸騰するとき

2 このときは、自動温度調節器が故障していますので、お買い上げの販売店または、工事店に連絡して、修理または部品交換を行ってください。

(18 ページの「サービスが必要なとき」の項に基づき、型式名や故障の状況など必要なサービスの内容をできるだけ詳しくお知らせください。)

12. 保守点検について

<保守点検契約のおすすめ>

●電気温水器は常にその性能を十分に発揮させるために、正しい使い方と同時に定期的な保守点検が必要です。故障がおきてからの修理では、大変な経費と時間が必要になります。
そこで当社は保守点検契約をおすすめします。
●保守点検契約についての詳細は販売店または工事店にご相談ください。

●故障・点検・修理などの連絡先
販売店・工事店の名称、住所、電話番号

ご購入年月日	年　月　日
ご購入店名 または 工事店名	
	☎

お客様へ……おぼえのため、ご購入月日、ご購入店名または工事店名を記入されると便利です。

13. 保証・アフターサービス

保証書について

1 この商品は保証書付です。
保証書は、販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

保証期間について

2 保証期間は、お買い上げの日から１年です。なお保証期間中でも有料になることがありますので、保証書をよくお読みください。
また、製品の故障に起因した営業補償等の二次補償はいたしません。
保証期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。

サービスが必要なとき

3 故障その他でサービスが必要なときは、お買い上げの販売店または 20 ページのサービスエンジニアリングセンターにご連絡ください。その際、つぎのことにご注意ください。

(1) 型式名(保証書に記入してあります)と据付時期をお知らせください。
(2) 故障の状況や必要なサービスの内容をできるだけ詳しくお知らせください。
(3) 修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

部品保有期間

4 補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切後８年です。
性能部品とは、その部品の機能を維持するために必要な部品です。
当社は、販売店からの注文により、補修用部品を販売店に供給します。

ご注意

●製品を移設する場合は、専門の技術が必要です。必ずお買い求めの販売店または、工事店へお問い合わせください。

●製品を長年お使いになった後、廃棄される場合は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。

14. 仕　様

			仕様	
型式名	戸建住宅用 屋外・屋内兼用型		BE−C46A	BE−C46A−100V
外形寸法	高さ	mm	2056	
	幅	mm	684	
	奥行	mm	760	
電源	時間帯別電灯*1)		単相200V, 50/60Hz（ヒーター・制御用）	単相200V, 50/60Hz（ヒーター用） 単相100V, 50/60Hz（制御用）
	深夜電力*2)		単相200V, 50/60Hz（ヒーター用）	単相200V, 50/60Hz（ヒーター用）
	昼間電力*2)		単相200V, 50/60Hz（制御用）	単相100V, 50/60Hz（制御用）
消費電力	ヒーター用		5.4kW	
	制御用		約95W	
騒音値（ポンプ運転時）		dB(A)	42/42（50/60Hz）	
タンク容量		L	460	
沸き上がり温度		℃	約75〜約90	
質量	製品	kg	69	
	満水時	kg	約529	

注1．本製品は別売のリモコン（BER-3A）を接続して使用することができます。詳しくは、お買い上げの店にご相談ください。

＊1）時間帯別電灯契約で運転する場合を示します。型式：BE-C46A-100Vについては時間帯別電灯契約で運転する場合でも制御電源・単相100Vが別途必要です。

＊2）8時間（中国電力管内では9時間）通電制御契約で運転する場合を示します。

愛情点検　長年ご使用の電気温水器の点検を！

こんな症状はありませんか？	●運転中以外に逃し弁から水が漏れる ●本体や配管から水が漏れる ●漏電遮断器が自動的に「切」になる ●その他の異常や故障がある	▶ ご使用中止	故障や事故防止のため、電源ブレーカを切り、温水器専用止水せんを閉じてから、販売店に点検をご相談ください。

サービスエンジニアリングセンター

●東京サービスエンジニアリングセンター：〒135-8366 東京都江東区東陽5-29-17(住友不動産東陽ビル)
(03)3649-3811

●横浜サービスエンジニアリングセンター：〒240-0062 横浜市保土ヶ谷区岡沢町105-1
(岡沢町藤巻ビル)
(045)337-6400

●埼玉サービスエンジニアリングセンター：〒330-0038 さいたま市宮原町2-87-1
(大宮MKビル3階)
(048)652-9767

●関西サービスエンジニアリングセンター：〒532-0022 大阪市淀川区野中南2-11-27
(06)6303-6159

●京都サービスエンジニアリングセンター：〒615-0824 京都市右京区西京極畑田町55-2
(075)315-4115

●兵庫サービスエンジニアリングセンター：〒652-0802 兵庫県神戸市兵庫区水木通8-2-7
(078)575-8431

●中部サービスエンジニアリングセンター：〒485-0072 愛知県小牧市元町4-66
(0568)72-0131

●九州サービスエンジニアリングセンター：〒815-0031 福岡市南区清水4-9-17
(092)561-4854

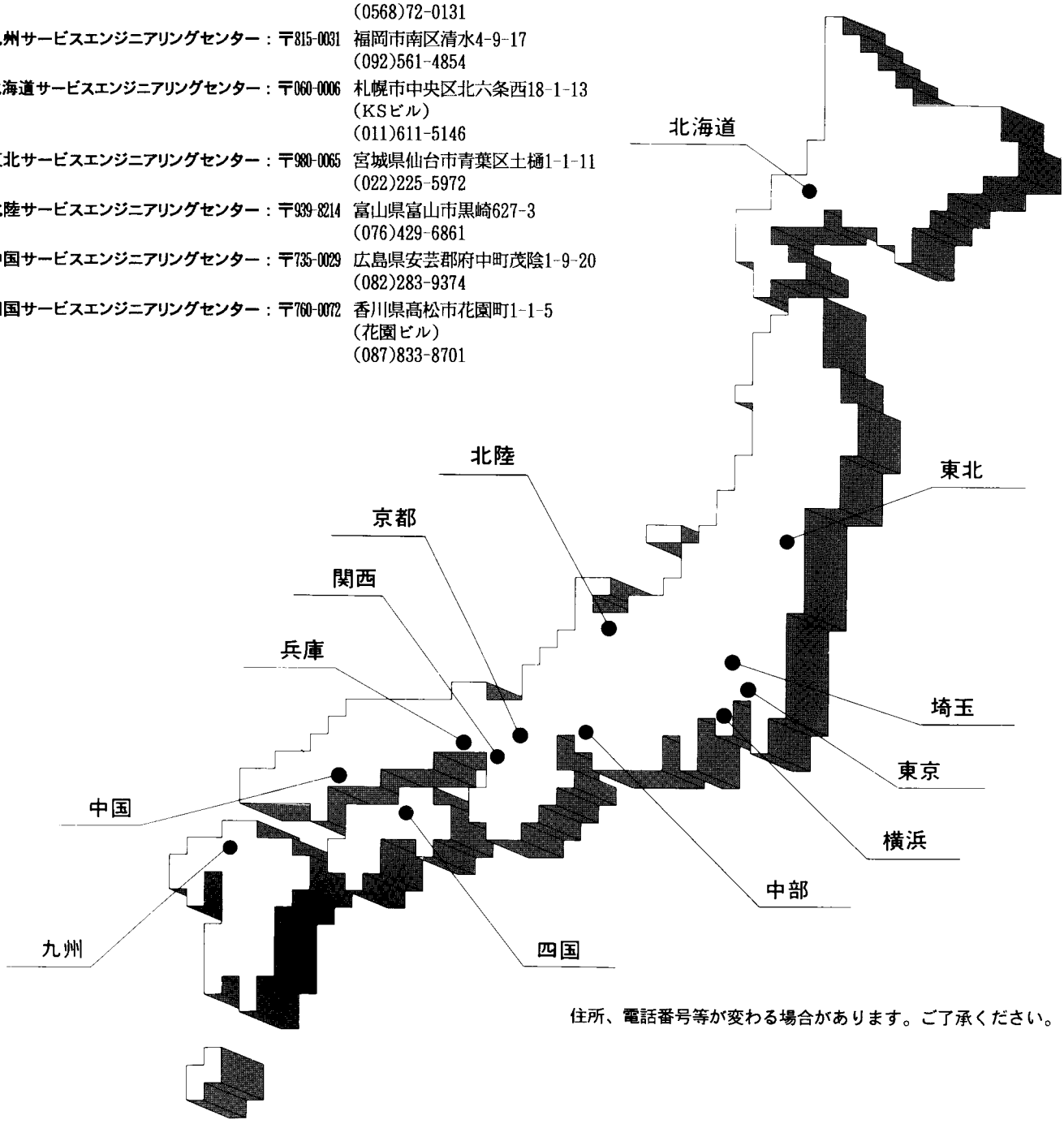
●北海道サービスエンジニアリングセンター：〒060-0006 札幌市中央区北六条西18-1-13
(KSビル)
(011)611-5146

●東北サービスエンジニアリングセンター：〒980-0065 宮城県仙台市青葉区土樋1-1-11
(022)225-5972

●北陸サービスエンジニアリングセンター：〒939-8214 富山県富山市黒崎627-3
(076)429-6861

●中国サービスエンジニアリングセンター：〒735-0029 広島県安芸郡府中町茂陰1-9-20
(082)283-9374

●四国サービスエンジニアリングセンター：〒760-0072 香川県高松市花園町1-1-5
(花園ビル)
(087)833-8701



住所、電話番号等が変わる場合があります。ご了承ください。

株式会社 日立空調システム

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町一丁目23番地2(大木須田町ビル) 電話 東京(03)3255-7181㈹

2003年10月印刷 Printed in Japan (Y)